

令和6年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22038	事業名	田園環境保全事業		評価分類	A1		
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()							
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	09:自然との共生				款	06:農林水産業費	
		施策の方向	02:森林・里山・農地の保全				項	01:農林水産業費	
重点プロジェクト		-			目		03:農業振興費		
事業期間	H 29 年度 ~ R - 年度	主な根拠法令等	亀山市田園環境保全事業補助金交付要綱						

担当部署	
部	産業環境部
課	農林振興課 農林政策G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	農業経営の安定化、持続的な農地保全・耕作放棄地の発生防止を図るため、継続して取り組む者を支援してきており、容易な転作、多面的機能を維持・発揮できる環境は、継続された取り組みで保たれる。	農業者・集落営農組織	景観作物を一団の面積を有する農地への作付けを支援することで、農地を保全し、持続的な田園環境の維持を促進するとともに、転作の推進、耕作放棄地の未然防止、農村景観の維持等を図る。	市内に住所を有する者又は集落営農組織を対象として、中山間地域においては30a以上、その他の地域においては100a以上の一団の農地にれんげ、コスモス、菜の花、ひまわり等の対象作物を作付した場合に補助金を交付する。

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
事業計画		○田園環境保全事業補助金の交付		○田園環境保全事業補助金の交付		○田園環境保全事業補助金の交付		○田園環境保全事業補助金の交付	
活動実績 (計画通り実施できたか)		補助申請者5者に対し、補助金を交付し、407aの作付面積(菜の花・ヒマワリ・コスモス)の実績が得られ、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止に繋がった。また、市フェイスブックやHP等によるPRを2回行った。		補助申請者5者(菜の花・ヒマワリ・コスモス)に対し、補助金を交付した。作付面積については、既存の取組者の面積が増えたが、前年と同じく指標には及ばない485aの作付面積であった。また、市フェイスブックやHP等によるPRを2回行った。		補助申請者4者(菜の花・ヒマワリ・コスモス)に対し、補助金を交付した。作付面積については、既存の取組者の面積が増えたが、指標の計画面積に及ばず483aの作付面積であった。また、農地の保全や田園景観の取り組みの情報発信のため市フェイスブックやLINE等を利用したPRを2回行った。			
③ 事業の実施状況 (P・D)	計画額	事業費	2,800千円	1,368千円	2,900千円	1,588千円	3,100千円	1,527千円	3,100千円
		国・県支出金		0千円					
		地方債		0千円					
		その他		0千円					
		一般財源	2,800千円	1,368千円	2,900千円	1,588千円	3,100千円	1,527千円	3,100千円
決算額	事業費			1,368千円		1,588千円		1,527千円	
		国・県支出金		0千円		0千円		0千円	
		地方債		0千円		0千円		0千円	
		その他		0千円		0千円		0千円	
		一般財源		1,368千円		1,588千円		1,527千円	
①期間内計画額(R4-7)			11,900千円	②期間外計画額(R8-)			-	①+②総計画額	
								11,900千円	

(令和6年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	1,527千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	補助金交付件数	活動	件	計画値	7	7	8	8
				実績値	5	5	4	
作付け面積	本事業を通じて作付けされた面積	成果	a	計画値	1,200	1,220	1,240	1,240
				実績値	407	485	483	
市フェイスブック等を利用したPR回数	市内外へ農地保全、田園景観の取り組みを情報発信した回数	活動	回	計画値	2	2	2	2
				実績値	2	2	2	

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
⑤ 成果 (C)	B 指標の計画値を達成できなかったものの、補助金の交付により景観作物の作付けが行われ、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止につながった。また、市フェイスブックやLINE等を継続して活用することで、市内外に農地の保全や田園景観の取り組みを広くPRすることができた。
まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
⑥ (再掲) 農業者・集落営農組織	景観作物を一団の面積を有する農地への作付けを支援することで、農地を保全し、持続的な田園環境の維持を促進するとともに、転作の推進、耕作放棄地の未然防止、農村景観の維持等を図る。

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
⑥ 課題 (C) 作付け面積については、新たな取組希望者の確保が困難であり、取組面積が伸び悩んでいる。特に、現在の取組者の高齢化や新たに取り組むを行える担い手不足が課題となっている。このため、農村景観の向上や耕作放棄地の発生防止への取り組みが困難になりつつあることから、これらの課題に対応するため事業内容の見直しを検討する必要がある。

方向性	
⑦ 事業の展開 (A) 他事業との統合 効率性の向上等に向け、他事業と統合する。	
改善・見直し内容	
令和7年度で対応する(した)もの 市内外へPRを行い活動を周知することで、取組面積の増加を図る。また効率性の向上等に向けて、他事業と統合を検討する。	令和8年度以降で対応するもの 市内外へPRを行い活動を周知することで、取組面積の増加を図る。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
⑧ (履歴) 成果判定	B	B	B	
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	他事業との統合	

1次評価者	産業環境部 農林振興課 農林政策GL 小澤 栄一
最終評価者	産業環境部 農林振興課長 鳥喰 さとみ